

国体事務局だより



（実行委員会への切換え）

国体準備委員会は、七月二十九日の総会で実行委員会に組織替えをした。この総会では予算、参加人員、会期などが承認された。

特に、このうち、会期については、夏季大会（水泳、漕艇）を九月二十四日から四日間、秋季大会を十月二十三日から五日間とする本提案が、八月四日の東京の国体常任委員会できつと承認決定され、本決りとなった。

（各種専門委員会の発足）

実行委員会切換え後、八月十二日には音楽専門委員会、同十九日には輸送専門委員会が発足するなど、各部門ごとに、専門的に、且つ具体的に計画を立て準備の完璧を期する態勢がとられている。

（施設）

国体を使用する会場は、全部で五十三会場に及ぶが、そのうち新設会場は二十カ所、他も改造改善を要するものが殆んどであった。しかしすでにプールも完成し、各開催地においても、夫々計画的にその準備が進められ、見通しは明るくなつてきている。

（各種全国大会の開催）

夏休みに入つてからボクシング、バスケット・ボール、ハンド・ボール、ソフト・ボールそれに剣道など、各種の全国競技大会が本県で実施された。各競技団体でも、明年の国体を控えて充分自信を得ると共に、反省のよき機会ともなつたようである。

☆国体報道委員会も発足

八月一日、「第十五回国民体育大会報道委員会」が結成され、次の役員が決つた。

- 委員長 熊本日新聞社編集局長
- 小崎 邦 弥
- 幹事 共同通信社熊本支局長
- 水上 勇
- 幹事 熊本中央放送局放送部長
- 吉田 利 充

この委員会は、日本新聞協会、日本放送協会、民間放送連盟に加盟する各種報道機関のうち、熊本市に本社または支社支局をもつ各社で組織され、報道関係者の自主的な調整機関として発足した。主な業務として、関係機関との連絡、報道席、通信、放送施設の確保及び割当並びに協定、アルバイト学生に関するあつせんと協定等があるが、千数百名に上る報道関係者の国体取材を、適正にしかも円滑に運営するため、毎月定例会を開催し、市国体事務局と緊密な連絡を保つて準備を進めて行くこととなつた。

（国体事務局）



実業団チームめぐり

☆ ☆ ☆ ☆



「太洋」運動部代表 花岡 勉

カーバイのプレイを

チームが誕生して四年連続九州選手権を維持しているが常に苦戦を強いられているので今後一そう打たれてもなお打ち返していくネバリ強さをもち、全力を尽して行くファイ



「鶴屋」運動部代表 大谷 義隆

チームワークに重点を

全選手ともテクニクにおいて力が一定してきたが、地理的な条件もあるのでスタープレイヤーの養成より、チームワークに重点をおいている。熊本国体にはよい成績を取めたいが、さらに現在のプレイヤーにのぞみたいものは良きグラウンドマナーではないだろうか。



↑ 太洋バレーボール部の選手たち……☆



熊本国体こそ日頃の練習のみせどころと、チームワークのもと、果敢な練習が続けられる……☆

（戦歴） 太洋バレーボール部

- ・31年から34年まで、九州選手権大会に連続優勝
- ・33年、34年都市対抗優勝大会に南九州代表として出場
- ・33年 国体へ九州代表として出場

このころ、順調な活躍をみせているが日頃の練習も、一段と熱が加えられ

（戦歴） 鶴屋サツカー一部

- ・33年度 県国体予選に優勝九州地区予選に優勝国体第四位
- ・34年度 都市対抗九州大会で第二位全国大会出場



↑ 鶴屋サツカー部の選手たち……☆

